

社会福祉学専攻（2015年度以降 第1学年次入学者適用）

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能			3) 独創性		4) 総合力	科目概要（2022年度シラバスより）	
			①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関し、高度な専門的知識を持っている	②専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する専門的知識を持っている	①研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する能力を有している	②研究を遂行するために必要な調査技法を習得し、適切な調査を遂行する能力がある	③研究を遂行するために必要な語学能力を持っている	①研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる	②研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により修士論文としてまとめることができる	①研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに独創性を有し、その成果を修士論文に集大成する総合的な能力を備えている		
基礎科目	社会福祉学研究基礎 1	2	△		○				◎		修士論文作成に向けた学修と研究を進めて行くための基礎知識、基礎理論を講義し、各自が研究の基本姿勢を形成するよう促しそれに必要な知識・方法を講義する。授業は、（１）社会福祉研究を進めるうえで欠かせない基本事項と視点、（２）ソーシャルワーク理論の変遷と実践モデル、（３）社会福祉研究の基礎となる社会科学のものの見方と考え方、（４）研究計画書作成の基本的視点と方法、研究倫理、の四つから構成される。	
	社会福祉学研究基礎 2	2	△		◎				○		さまざまな社会福祉問題や福祉ニーズを客観的に把握するための研究問題の設定、調査設計、資料の収集と分析など、社会福祉調査研究の全過程を学習する。貧困、障害者、児童福祉、高齢者分野を研究する教員が、自らの学術経験に基づいて、研究の動機、研究方法などを紹介する。	
専攻科目	特殊研究科目（A群）	社会福祉原理論研究	2	◎		○			○		社会福祉とはどのようなものであり、何を対象にどのように構成され、何によって推進されるものか、どのような構造の下で前進・後退するものか等をめぐり、社会福祉を成立させる基本法則、普遍的価値、原理を学ぶ科目である。また、基本的な概念・理論と実際の社会福祉展開にはいかなる関係性がみられるのかについての実証的検証を行い、あるいは個別具体的な個々の生活問題を軽減・緩和するためには、いかなる理論に寄って立つべきなのかについての検討を行うことも本科目の主要な課題となる。	
		社会福祉方法論研究	2	◎		○			○		クリティカル・ソーシャルワークについての単一概念というものは存在しない。ラディカル、進歩的あるいは反抑圧的、解放的など多様な表現ができるのがクリティカル・ソーシャルワークである。そもそも福祉の「対象者」は、差別され抑圧されてきた存在である。その状況から彼や彼女たちが、自身の課題と対峙しつつ自身をいかに解き放つかをクリティカル・ソーシャルワーカーたちは考えてきた。この授業では、クリティカル・ソーシャルワーク実践の理論がどのように追及されてきたのかを検討しつつ、それが、今日の社会のドミナントなソーシャルワークとどう違うのかを考える。さらに、個々の問題に関し、クリティカルな視座をもつとはどういうことであるのかを受講生相互の議論のなかで検討する。	
		社会福祉政策論研究	2	◎		○				○		社会保障と福祉政策に関する基礎理論を徹底的に学修する。ここでいう基礎理論は歴史および理念と理論をさすが、社会保障論や福祉政策論はそれ自身、社会科学のなかの基礎科学ではなく、応用的な領域である。したがって、基礎科学となる経済学、政治学、哲学、社会思想、人権など社会科学の基礎理論をとらえながら、さらに資本主義の歴史、社会問題論、国家論、帝国主義論、福祉国家論、階級闘争論、社会運動論、財政学、行政学を理解し、それらと並行して社会保障論、福祉政策論を深めることにする。なお、この授業で学ぶ政策研究は機能論的な政策解説や運動論ぬきの客観的記述を行うような政策論ではないことをお断りしておく。また新自由主義改革批判をつねに意識して授業を進める。もちろん、限られた時間で学修することに限界はあるが、こうした問題意識のもとで、受講生の報告をもとに政策理論の基礎を徹底的に学ぶ。基礎を学ぶことほど重要なことはないが、基礎理論を理解することほど、労力を要するものはない。しかし、そうした労力は研究の基礎体力をつくるためには不可欠である。履修にあたっては、そのことをよく理解していただきたい。なお毎回の授業テーマは想定のものであり、受講者のレベルによって内容が変更になることもある。
	特殊研究科目（B群）	社会福祉史研究	2	◎		○				○		社会福祉の歴史研究を行う際、事実を解明するための準備すべき理論的な枠組みを学んでおくことが不可欠である。この授業では主に、代表的な社会福祉史研究の批判的検討を通して歴史研究を進める上での理論の重要性を学ぶ。また資料の扱い方についても学んでいく。
		比較福祉研究	2		◎	○			○			社会科学における比較研究方法を学習し、社会福祉・社会政策の本質的問題と関わる幾つかの研究問いを提起し、それぞれの問題を国際比較研究事例を持って把握すること現代社会福祉制度だけでなく、社会福祉の思想と歴史についても比較の観点から学習する。基本的には、アメリカ・ヨーロッパ・北欧・東アジアの国際比較事例を学習する
		乳幼児保育特殊研究	2	◎		○				○		本授業では、保育において「子どもの声」や「子どもの視点」がどのようなものとして位置づけられているのかについて探究するために、関連する国内外の理論や実践について検討する。検討をとおして、「子どもの声を聴くこと」や「子どもの視点に立つこと」の意義とともに、そのための方法や課題について具体的に考察する。
		児童福祉特殊研究	2	◎		○				○		社会福祉学において、児童福祉を研究する意味と意義、研究の視点と方法を学ぶ。具体的には、児童福祉の史的変遷を概観し、子どもの権利に立脚した児童福祉について検討する。現代社会における子どもとその家庭のおかれている状況、生活困難・生活課題について理解を深め、子どもの「育ち」、「育て」の視点から児童福祉の課題と可能性を探る。
	障害者福祉特殊研究	2	◎		○				○		①障害者問題とは何か、②障害者福祉の成立根拠、③障害者福祉理念の検討、④障害概念の検討、⑤障害者福祉政策の問題点、⑥障害者福祉の実現に適切な行政システムと供給主体像の検討。	

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能			3) 独創性		4) 総合力	科目概要 (2022年度シラバスより)	
			①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関する高度な専門的知識を持っている	②専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する専門的知識を持っている	①研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する能力を有している	②研究を遂行するために必要な調査技法を習得し、適切な調査を遂行する能力がある	③研究を遂行するために必要な語学力を持っている	①研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる	②研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により修士論文としてまとめることができる	①研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに独創性を有し、その成果を修士論文に集大成する総合的な能力を備えている		
専攻科目	特殊研究科目 (B群)	高齢者福祉特殊研究	2	◎		○			○		講義は次の3つの部門からなる。(1) 高齢者観とケアの思想、(2) 介護保険制度の理解、(3) 介護システムの比較。高齢者介護制度の基盤である高齢者観を理解すること、介護保険の基本原則を把握すること、そして日本の介護システムを東アジア比較の観点から理解することを目指す。基本的な内容と問題点、課題を講義したのち、グループに分かれて、提示するテーマについて議論し、グループでの議論の紹介と報告、それを踏まえた、全体的な討論、を行う。この作業を何度か繰り返すとともに、討論の中で提起された問題を掘り下げるために、必要に応じて講義と討論を組み込みながら進める。	
		精神保健福祉特殊研究	2	◎		○			○		日本の精神保健福祉活動の成立と歴史的展開について、資料文献を通して政策的課題の検証を行う。さらに、精神保健医療福祉の今日的広がりや、事業・組織・機関など多面的サービスの実態をとりあげ、当事者や家族、援助専門職の業務、価値、倫理にも大きな影響を与えていることに着目する。本授業では、受講生の報告および討論により実践と政策に対する研究的理解を深める。	
		医療福祉特殊研究	2	◎		○			○		バブル経済崩壊後の景気低迷と経済のグローバル化、そして世界的な新自由主義の潮流のなかで日本においても1990年以降、非正規雇用が拡大するなど雇用は著しく不安定化してきている。しかし、これに対処すべき公的年金、医療、介護、生活保護など社会保障制度には不備があり、社会保障制度審議会1995年勧告に象徴される社会保障理念の転換と、その後の制度改革により、ますます貧困化に歯止めをかけられない制度になってきている。そのなかで医療ソーシャルワーカーは、特に1990年代以降の医療制度改革の影響により、社会科学的な対象認識を見失ってきたように見受けられるのである。本授業では、特に1990年代以降における国民生活と社会保障、そして医療ソーシャルワーカーの実践の変化をとりえつつ、今日における医療福祉の課題を総合的に明らかにしていきたい。	
		地域福祉特殊研究	2	◎		○			○		地方自治、住民自治をないがしろにせず、むしろ基底に据えて地域福祉、地域医療を形成することが重要である。ところが、政策的には地方統制を強化する政策手段が相次いで登場している。地域医療構想と連動する地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会づくりの提唱などである。このような政策が進展する中で、地域住民の受療権、健康権の保障水準はどのようになっているのだろうか。特に貧困の実態については、地域において深刻化しているはずの貧困が見えづらくなっているとの指摘がある。地方統制の強化により、裁量を奪われつつある自治体による地域住民の実態把握、政策展開は停滞気味である。こうした状況に対して、受講生とともに地域の貧困の実態を把握し、地域福祉・地域医療をめぐる政策分析を図ることとした。	
	現代社会福祉問題特殊研究	2		◎		○			○		近年は「子どもの貧困」など「貧困」への関心は高まりを見せる一方、「貧困の自己責任」を問う論調は強く、「貧困・生活保護バッシング」の事象は後を絶たない。自己責任論は「貧困」状態にある人々に自力で問題解決を図ることを求めるため「助けて」という声を出すことを難しくさせる。そして「貧困」状態にある人びとを地域社会から「見えなくさせる」構造がつくられていると考えられる。このような問題意識から本授業では、①現代社会における「貧困の自己責任論」について、国際比較調査や地域調査(量的・質的調査)をもとに検討する。②「貧困の自己責任論」について歴史的視点から検討を行い、自己責任論が生み出される社会構造について検討を行う。③そのうえで、今日の生活保護行政や生活困窮者自立支援において進められている「自立支援」の現状をもとに、政策的言語として用いられている「自立」「自立支援」のあり方を問い直す。④そして「自立」および「依存」概念の変容を辿り、現代社会における「自立」と「自立支援」のあり方を検討する。これらの検討を通して、今日、一般化している「自立」「自立支援」「自己責任」という言説がなぜ、どのようにしてつくられたのか、その社会的背景を考察する。そして、現代社会にひろがる「貧困」に対してソーシャルワークはどのように立ち向かっていくのかを検討する。	
	演習科目	乳幼児保育特殊演習	2		△		◎			○		本演習では、乳幼児の発達の特徴やその背景にある発達理論について、新しい研究成果に学びながら乳幼児の日々の姿と重ね合わせて検討を進めていく。また本授業のテーマに則りながら、受講者の関心を考慮した内容も適宜加えていく。
		児童福祉特殊演習	2		△		◎			○		社会福祉からみた解決すべき子どもの問題を自分自身で一つ選択して、その問題とは何なのかを受講者や教員に提示し、その解決への軌跡と今後の展望を考える。2021年度は、受講者が一人だけだったので、自身の修論のテーマ・柱づくりと兼ねて「母子生活支援施設」の歴史的位置づけや、利用者の声などを多面的に考察する取り組みをおこなった。
障害者福祉特殊演習		2		△		◎			○		障害者福祉実践の課題および障害当事者・家族の生活問題を可視化するための実証研究に関する理論・方法について先行研究・調査をレビューしながら学習する。基本文献を複数冊読んだ後、各自の問題意識に照らし合わせて、関心のある先行研究について報告し、集团的議論によって深めていくこととする。	

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能			3) 獨創性		4) 総合力	科目概要 (2022年度シラバスより)	
			①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関し、高度な専門的知識を持っている	②専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する専門的知識を持っている	①研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する能力を有している	②研究を遂行するために必要な調査技法を習得し、適切な調査を遂行する能力がある	③研究を遂行するために必要な語学力を持っている	①研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる	②研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により修士論文としてまとめることができる	①研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに獨創性を有し、その成果を修士論文に集大成する総合的な能力を備えている		
専攻科目	演習科目	高齢者福祉特殊演習	2	△			◎		○		今後、一人暮らし高齢者の増加に伴い、ますます孤立死(孤独死)が増加することが予想される。しかし、孤立死(孤独死)問題は研究途上にあり、孤立死(孤独死)の定義も明確になっていない。そのため、孤立死(孤独死)の実態把握もできていない。また、孤立死(孤独死)対策も確立していない。そこで、本講義では高齢者の孤立死(孤独死)の実態と予防対策について検討する。	
		精神保健福祉特殊演習	2	△			◎		○		現代人の生活や人生全般にかかわる諸課題としての精神保健(精神疾患・精神障害・こころの不調など)を取り上げる。個別課題としてのみならず、社会心理的および福祉的・制度的な視点からも検討する	
		医療福祉特殊演習	2	△			◎		○		新型コロナウイルス感染拡大、度重なる自然災害、震災による原発被害者の問題など医療を巡るさまざまな社会問題が身近に生じている。こうした状況から本授業では、疾病を個人の責任にとどめず、社会的な背景や環境要因にも目を向け社会に働きかけるソーシャルワーク専門職の養成が求められている。本演習では、医療福祉を取り巻く課題の背景や社会構造に着目し、MSWの実践例をもとに、あるべき医療ソーシャルワークについて議論する。また、研究方法の中で、特に質的研究方法の考え方について学び、修正版グラウンデッドセオリアプローチ(M-GTA)によるインタビューデータの分析について演習を行う。	
		地域福祉特殊演習	2	△			◎		○		①介護保険制度問題を本質的に検討し、地域包括ケアの展開を深める。②総務省の自治体戦略路線を批判的に検討し、あるべき自治体論を検討する。③厚生労働省のわがことまご地域共生社会を批判的に検討し、あるべき地域福祉のありかたを検討する。単に機能論的に地域福祉をとりあげるのではなく、住民自治の充実から地域福祉をとらえ、地域ケアの本質から地域包括ケアシステムを再構成し、後退した公的責任の補完としての地域福祉や地域ケアではなく、公的責任をはたさせ専門職協働連携や福祉国家型の政策転換を含めた課題を考察する。ノウハウ、ハウツウの学習を行うものではない。理論と本質を探究できる考察力を養うことを狙いとする。	
	研究指導科目	社会福祉学研究指導演習1	1			△			◎		課題意識の整理と研究方法の考察	
		社会福祉学研究指導演習2	1				△		◎	○	課題意識の整理と研究方法の考察	
		社会福祉学研究指導演習3	1				△			◎	○	修士論文構想の確定と執筆に向けて資料の文献読解、調査の実施と解析
		社会福祉学研究指導演習4	1			○	△			○	◎	修士論文構想の確定と論文の執筆
関連科目	共生とケア1	2		◎				○			①アメリカの公民権運動を概観し、命と人権の格差や差別への取り組みから現法に反映された法理などについて確認する。②障害がある人となない人の壁について考える。差別が温存されてきた背景を考察する。③人の自立にとって何が必要なのか微視的にとらえ理解する。④共生社会をめざすウェーデンや、韓国の取り組みから民主主義と社会正義について考察する。⑤ケアのあり方について、現在、到達している倫理と価値の中から考察する。⑥新自由主義による排除の思想とその影響について考察する。⑦平等と公正を実現する社会のあり方について考察する。それらを通して、ケアと共生のための政策や社会はどうあるべきかを考える。資料や講義による問題提起について疑問点を出しあい、テーマに沿った討議の時間を持つ。	
	共生とケア2	2		◎				○			①代表的なケアの定義を確認し、受講生の専門領域から具体的なケアについて考える。②ケア提供者の属性により異なってくるケアの関係性について考える。③ケアのジェンダー問題の背景について考える。④共生型ケアの実践から変容していくケアの関係性について考える。⑤マクロ政策から日本の私的ケアと社会的ケアについて考える。⑥求められる「共生とケア」の社会像を考える。	
	福祉の国際比較	2		◎				○	○		本講義では、諸外国の福祉政策・理念のあり方やケアの具体的な姿をとらえ、福祉国家の特質と日本との比較を行うことを通じて比較研究の意義や方法を理解する。加えて、各国家における対象者観と実際の制度のあり方のつながりについても理解を深める。諸外国の事例を学ぶことは、各国の固有の社会福祉政策・制度の有り様や、自らの価値観を形成している社会的要因を理解するうえでも大きな意義がある。前半では、主に福祉国家レジームについて学び、後半は具体的な事象をもとに国際比較データの用い方、読み方なども含め学習する	